

Title	The mind in the making. By J. H. Robinson
Sub Title	
Author	山本, 光郎(Yamamoto, Mitsuo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1924
Jtitle	史学 Vol.3, No.2 (1924. 8) ,p.179(340)- 181(342)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19240800-0181

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

弊に當らざる所が無いでも無い、乍併、苟も人類の歴史に興味を有するものは一讀の必要があると思ふ。(移川子之藏)

The Mind in the Making.

By J. H. Robinson, 1921

本書の發行趣旨に就ては史學第二卷第一號に間崎氏の紹介がある。今其の概要を茲に紹介する。

本書は收むる處第八章十七節二三〇頁内外のもので新奇なる研究により先づ近代心理學上より思考形式種類から説き人間の動物的遺傳と未開精神状態から希臘創始時代のイオニア、エレア、ピタゴラス、三學派の自然哲學からアテーネ文化のソフィスト運動に初まるソクラテースの精神的學問の獨立を述べそれより。プラトン、アリストテレスの組織時代の影響を記し次に中世紀を歐洲思想史の見地より教父時代、暗黒時代、後期中世の三期に分類し所謂中世起源を後のスコラ哲學即ち基督教哲學時代の千年王國に發するを論じ吾々現今の文化や人類思想は凡て直接に此の時代に屬すべきものであるを述べ極めて少數の大膽なる自由思想家のみ此の假定から徐々に脱し得るだけで舊教徒であらうが、新教徒であらうが基督教信者の多數は依然此の時代に屬すべきものであるを論じそれより十七世紀の自然科學的の革命に入り近代自然科學の基礎學者天才的ガリレオ、ニュートン、デカルトの三人を並置して其の天才的創造的思考活動の及ぼせる精神的革命を述べ自然科學的研究精神を

鼓舞して人類進歩の歴史的發展経路を示し最後に現時の社會改造問題にまで言及して思想の改善と善導を示したのが此の書の概要である。

本書は要するに思想改造論であるが其の起點を歴史の科學的研究法に求め公平なる歴史的事實の承認と實際的目的を以つて傳統的權威や一切の社會人心の迷妄や臆斷を排しやうとするので彼の十七世紀の自然科學的實際的學問運動の主張をも認められ其の復興精神に充ちたる點や殊に彼の有名なる經驗的哲學者フランシス・ベーコンの主張偶像説を思はしむる點に特色を自負を認め

る。卷頭第一章本書の目的を題して著者は歴史研究者としての抱負を確信を語つてゐる。

「歴史研究者として多年特に人間が今日一般に行はれてゐる様な人生に關する觀念や信念を如何にして有するに至つたかといふ研究に従事して來たる著者は少なくとも歴史は吾々現在の苦境や混亂を照明するものだといふ結論に達した。(同書五頁)

同じく同章を参照する。

「吾々は實際的人間の行爲及び組織を理解する目的を以つて吾々の精神の完全なる改造に着手すべきである。吾々は事實を新に批評的に冷靜に試験しなければならぬ。然らば吾々の觀察を古い哲學や經濟學及び道德に依つて歪められずに吾々の哲學は此の試験の結果として自ら獨立に組織せらるゝであ

らう。然し事實は此に反するので吾々は先づ哲學は教へられ
て而して其の光りによつて吾々は事實を是認しやうとする。

吾々は經驗的科學に於て大なる作業を創めたる人々の如く過
程を轉倒しなければならぬ。吾々は先づ第一に事實に面し忍
耐して新哲學の發現を待たねばならぬ。(同書一三一—四頁)

吾等は此等の言に因つて著者の歴史觀を知る如く文化解釋は少
なくとも今日の哲學から要求すべきものでなくして吾等は新に過
去及び現在の歴史的事實の中から發見し、讀むべきものであるこ
いふやうに論じてゐる。吾等は此の點に著者の歴史研究の立場の
差異を認めるのであるが、著者は明らかに一般哲學に對する反感
を有しないであらうか。著者は此の書の第二章に於て思考形式の
種類を枚擧して其の中の創造的思考として認識の創造的作用を論
じ自然科学の發見や一切の藝術作品の天才の創造活動を述べ、詩
人小説家を推賞することを忘れなかつたが哲學者を全く實人
生には無關係であること云ふのみならず、近世文化意識の基調を爲
す創造的總合意識の發見者カントの純粹理性批判を次の如く取扱
つたのは科學的歴史家として餘り公平を缺きはしないか。

「カントは彼の大作を純粹理性批判と題したが然し近世の精
神研究者によつては純粹理性は上天の都を築きあげたる純金
や透明硝子と同じく神秘に思はれるだらう。」(同書三三頁)

假りに著者の如く與へられたる文化を解釋する立場を認めるこ
しても文化の基礎は一切の理性活動の内部的本質に於て見出さる
べきものでなからうか。單なる變化は無論進歩でなく評價する歴

史は只だ目的を以つて規定する意識に依つてのみ可能である。吾
等はヴァインデルバンドに従つて歴史に於ける理性を表示する爲め
には吾々は單に歴史を知るだけでなく又理性をも知らねばならぬ
のである。

兎に角歴史の科學的方法なるものに就ては困難なる異論はある
が其の熱心と勇氣とを尊重する。蓋し人間のみ歴史を有する動物
であつて其の文化生活は時代から時代へ傳統と濃厚化する史的結
合であつて此の結合に於て協働活動を爲し新事象を創造せりとし
るものは其の發達を公平に理解し各時代に行はれたる觀念信念思
想、及び道德の規準が如何なる程度にまで事實的承認を得たるか
を批判吟味しなければならぬ。本書は少なくとも此の精神を以つ
て不十分ながらも人類思想發展の各時代の信念や思想の特質を大
膽に記述せうとした。

要するに歴史的過程は常に教育的過程と結合するを解し得らる
るのであるから傳統が一切の歴史的過程に對して働く實際的影響
は今日の學問の進歩に由つて一層明かにせられつゝあるが、然し
人類進歩の發展は唯だ生物學的に結合する發生的變化に止まらず
常に創造的意識的に改造せらるべきものである。其れ故發生法と
批判法とは常に相省みなければならぬものと信ずる。吾等はフイ
フテが歴史的過程を教育的に解したる意味に於て著者の歴史の改
造論に同感する。吾等は著者を歴史教育家として見る時此書の
眞價を評價し得ると思ふ。現今吾が國の中等學校師範學校の歴史
教育の無内容と無精神とを顧みる者は何人か本書の一讀の價値を

惜しまざらんや。吾等は著者と共に眞なる歴史學の成立する時には此の世界は今日よりもつと善くなるであらうといふことを信じ且つ希望する者である。

(山本光郎)

The McKinley and Roosevelt Administrations, 1897—1909.

By James Ford Rhodes.

New York. 1922.

James Ford Rhodes 博士の History of the United States Since the Compromise of 1850. 全八巻の大著述は一八五〇年以來の合衆國史を主として經濟上並に社會上より記述したものであつて合衆國史を研究せんとする者に取つて頗る價值あるスタンダードワークである。同博士は此他に History of the Civil War 1865. を著し地方的偏見を無視して合衆國史の一轉期たるこの大内亂を極めて公平に記述してゐる。著者の歴史家としての優秀なる才能は既に此等の著作によつて定評がある。今茲に大作合衆國史の續編とも見るべき本書が現はれた。

著者は一八四八年オハイオ州のクリーブランドに孤々の聲をあげ大學教育を終へて後渡歐し主として冶金學を終め傍ら新聞學を研究した。歸國後一八八五年迄父の鐵工業に従事し相當の富を蓄積して後合衆國史著述の大事業に着手し一九一九年最終編たる第八巻が完成するまで三十四年の間尊敬すべき努力を以つて終始した。

本書は元來合衆國史の第九巻となすべきが當然であるが著者が故意に之を避けたのは本書が前者と全然相違せる見地より記述せられたるためであるらしい。即ち前者が主として經濟史的社會史的なるに反して本書が純然たる政治史的外交史的彩色を有するに因ると思はれる。されど本書に含まれてゐる時代は是迄全然對外的に孤立してゐた合衆國が従來の傳統を棄て、對外的に大發展をなした時代である。それだけこの時代の歴史は政治上外交上の重大問題を主要素となしてゐるのであつてこれは當然のことである。著者が故意に卷を改めたことは些々たる事柄であるとは云へ其處に時勢の推移によつて歴史の叙速を變更せらるゝことを暗示せんとする著者の意の存する所を窺ふべきである。

歴史家が其時代を記述することは一面正確なる史實を傳へ得る利益が存すること共に他面に於ては歴史家自身の主觀其他の私上の事情のために公平なる觀察を誤まる懼れあることは否み難い事實である。

著書はマツキンレド大統領の一大背景的人物であつて合衆國政界に陰然大勢力を振つてゐたハンナと姻戚關係を有し且つ傑出せる文才を有せしため政界の重要人物中に多數の知己を得マツキンレドが就任する以前に既に合衆國史三巻を著して國史家としての重要な地位を贏ち得てゐた。

本書の約四分の三は國策と戦争と外交問題の記述に費され殘餘の頁は主として主要人物の紹介に費されてゐる。彼が史上の大立物として本書に詳述してゐる人物即ちマークハンナ、マツキンレ